

| | | |
|---|-------|---|
| 系 | 統 | 2液型エポキシ樹脂系打継ぎ用接着剤 |
| 特 | 長 | 1) 超速硬コンクリートの超速硬化性に応じた、早期接着強度発現性を有する。 2) 新旧コンクリートの打継ぎ接着性に優れる。 3) 湿潤面への接着性に優れる。 |
| 用 | 途 | 1) 超速硬コンクリートの打継ぎ、嵩上げ用 2) NEXCO床版上面増厚工 構造物施工管理要領 平成22年7月 東日本高速道路株式会社・中日本高速道路株式会社・西日本高速道路株式会社 3) 空港コンクリート舗装の薄層付着オーバーレイに関する研究 国土交通省 国土技術政策総合研究所 研究報告第30号 平成18年9月 4) 鋼床版橋梁の疲労耐久性向上技術に関する共同研究(その2・3・4) 報告書 独立行政法人土木研究所 共同研究報告書 整理番号第395号 平成21年10月 |
| 配 | 合 比 | 主 剤：硬化剤 = 3：1 (重量比) |
| 荷 | 姿 | 10kgセット (主剤/7.50kg、硬化剤/2.50kg) |
| 外 | 観 性 状 | 主 剤…白色粘稠液状 硬化剤…淡黄色液状 混合物…白色粘稠液状 |

可使時間の目安・打設有効時間

| タ イ プ | 冬用 (W) | | | 春秋用 (R) | | | | 夏用 (S) | | | |
|-----------------|--------|----|----|---------|----|----|----|--------|----|----|----|
| 温 度 [°C] | 5 | 10 | 15 | 10 | 15 | 20 | 25 | 20 | 25 | 30 | 35 |
| 可 使 時 間 [分] | 20 | 15 | 10 | 35 | 20 | 15 | 10 | 35 | 20 | 15 | 10 |
| 打 設 有 効 時 間 [分] | 90 | 60 | 40 | 90 | 75 | 60 | 40 | 90 | 75 | 60 | 40 |

※可使時間：接着剤混合開始から塗布作業ができなくなるまでの時間。

打設有効時間：接着剤混合開始からコンクリートの打設を終了しなくてはならない時間。

| | | |
|---|-----------------|---|
| 比 | 重 | 1.20±0.10 (硬化物) |
| 標 | 準 使 用 量 | 1.2 kg/m ² |
| 貯 | 蔵 保 証 期 間 | 12か月 (未使用、冷暗所保存) |
| 消 | 防 法 に よ る 区 分 | 主 剤 危険物 第4類 第3石油類 硬化剤 危険物 第4類 第3石油類 |
| 毒 | 物 及 び 劇 物 取 締 法 | 主 剤 該当しない 硬化剤 Sタイプ：該当する、Rタイプ：該当する、Wタイプ：該当する |
| 使 | 用 方 法 | 1) セット単位または主剤、硬化剤を配合比にしたがって計量して使用する。 計量して使用する場合、主剤を均一になるまで混合してから計量すること。 2) 主剤、硬化剤を攪拌機で均一になるまで十分に混合攪拌する。 3) ローラー、刷毛、ゴムベラなどで打継ぎ面に塗布する。 4) 打設有効時間内に超速硬コンクリートを打設する。 5) コンクリートの養生を行う。 |
| 使 | 用 上 の 注 意 | 1) 接着面の表面処理を十分に行う。(レイトランス、汚れ、脆弱部の除去) 2) 接着面に浮き水がある場合は、浮き水を除去する。 3) 主剤と硬化剤の混合攪拌時、空気を巻き込まないように、低速で攪拌を行う。 4) 可使時間内に塗布作業を終了する。 5) シンナーや水を混入して使用しない。 6) 可使時間が短いため、主剤、硬化剤を均一に混合したら、素早く塗布を行う。 7) 夏期施工時は、可使時間が短くなるため直射日光下に製品を置かないこと。 出来る限り使用直前まで現場事務所等の冷暗所に保管すること。 8) 打設有効時間内に、超速硬コンクリートの打設を終了する。 |

| |
|-------|
| ⚠ 注 意 |
|-------|

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 健康上、注意を要する物質を含有しています。 皮膚に付着すると“かぶれ”を起こすおそれがあります。 取り扱い中は、保護眼鏡、保護手袋、保護マスク等を着用してください。 詳細については安全データシート (SDS) を参照してください。 |
|--|